

河川分科会河川整備基本方針検討小委員会報告

(渡川水系、六角川水系)

●小委員会開催

・渡川水系及び六角川水系:7月10日、7月29日

●各水系に関する主な委員意見、質問とこれに対する対応、説明

○渡川水系

(河道計画)

【意見】洪水時に河口砂州がどのようにフラッシュされるのか等を把握するために、

水位計を縦断的に設置し、洪水時の水面計を調べる必要がある。

【対応】本文に記載することとした。

【質問】支川中筋川、後川と本川との合流関係はどうなっているのか。また、本川

がどのような流量の時に、支川の水位をどのように決めているのか。

【説明】本川と支川では合流時差があり、四万十川と後川ではピーク時差は1時

間から6時間程度、四万十川と中筋川ではピーク時差は1時間から9時間

程度である。また、洪水時には、中筋川と後川は四万十川の水位の影響

を受けるため、中筋川と後川の水位は、「支川ピーク時において、本川水

位を出発水位として、その時の支川流量を流すケース」と「本川ピーク時

において、本川水位を出発水位として、その時の支川流量を流すケース」

の2ケースで水位を算出し、2つの水位を包絡する水位としている。

【質問】沈下橋について、流木の影響を検討しているのか。

【説明】沈下橋に流木がひっかかることによる洪水の影響については、検討を行っていないが、これまでに沈下橋に流木がひっかかり、せき上げ等が発生し、治水上問題が顕在化した事例は報告されておらず、計画高水流量である 14,000m<sup>3</sup>/s クラスの洪水が流下した場合には、例えば、佐田沈下橋であれば水面下約 7.3m に沈下橋があるなど、沈下橋が支障になる状況は考えにくい。

(その他)

【意見】渡川水系は、「日本一の清流」と呼ばれているので、より一層上を目指していくという精神を盛り込むべき。

【対応】本文に記載することとした。

## ○ 六角川水系

(河川特性)

【意見】六角川の下流端は、有明海まで含めた、もう少し広がりを持ったものとしてとらえることが必要ではないか。

【対応】本文に記載することとした。

(河川計画)

【意見】大きい干満の影響を受ける河川なので、貯留関数法で求めた洪水ハイドログラフとそのピーク流量について、不定流計算で確認することが必要ではないか。

【説明】潮位による水位変動の影響を見るために、不定流モデルを構築し、実績水位を再現すると概ね良好な再現結果であった。このため、本モデルを用

いて、貯留関数法と不定流モデルで求めたハイドログラフを比較すると、概ね合致しており、洪水のピーク流量及び計画のハイドログラフを貯留関数法で算定することは妥当である。

【意見】高潮と洪水は同時生起するのか。高潮と洪水の過去の実績を整理した上で、河口堰の操作について説明すべきすべき。

【説明】これまでに平成 15 年 6 月洪水や平成 16 年 9 月洪水等で、高潮と洪水がほぼ同時に生起している。河口堰の操作は、台風が近接し、高潮が発生すると予測される場合に、貯水容量を最も確保できる最干潮時にゲートを全閉し、高潮による被害を防除している。

(内水)

【意見】基本高水のピーク流量  $2,200\text{m}^3/\text{s}$  に対して、内水排水量  $600\text{m}^3/\text{s}$  と非常に割合が大きく、内水対策に課題があることを本文に記載すべき。

【対応】本文に記載することとした。

【質問】温暖化に伴う豪雨の頻度が高くなる中で、水田として使いつつ遊水機能を持たせる方法は積極的に活用していくべきだが、農地等の補償はどのような方法で行っているのか。

【説明】全国の直轄で整備した遊水地 17 箇所のうち、10 箇所用地買収方式を採用し、7 箇所地役権方式を採用しており、洪水調節容量を確保するために遊水地内を掘削する等、遊水地内の土地を改変する場合等に用地買収方式を採用し、整備前の土地利用形態を維持しつつ、遊水地として活用する場合等に地役権方式を採用している。

# 河川整備基本方針検討小委員会名簿 渡川・六角川水系

- 委員長(臨時委員) 福岡捷二 中央大学研究開発機構教授
- 専門委員 綾日出教 (社)日本工業用水協会顧問
- 臨時委員 池淵周一 京都大学名誉教授
- 専門委員 石島操 全国森林組合連合会代表理事専務
- 専門委員 井上一夫 小鳩の家保育園園長
- 専門委員 入江登志男 (財)給水工事技術振興財団専務理事
- 専門委員 大年邦雄 高知大学農学部教授
- 専門委員 上河潔 日本製紙連合会常務理事
- 専門委員 岸井隆幸 日本大学理工学部教授
- 専門委員 楠田哲也 北九州市立大学大学院国際環境工学研究科教授
- 専門委員 小池俊雄 東京大学大学院工学研究系社会基盤学専攻教授
- 専門委員 小松利光 九州大学大学院工学研究院教授
- 専門委員 坂本弘道 (社)日本水道工業団体連合会専務理事
- 専門委員 佐藤準 全国土地改良事業団体連合会専務理事
- 専門委員 鈴木幸一 愛媛大学大学院理工学研究科教授
- 専門委員 谷田一三 大阪府立大学大学院理学系研究科生物学専攻教授
- 専門委員 中川一 京都大学防災研究所流域災害研究センター教授

臨時委員 松 田 芳 夫 中部電力（株）顧問

委 員 虫 明 功 臣 福島大学理工学群共生システム理工学類教授

専門委員 森 誠 一 岐阜経済大学経済学部教授

専門委員 森 田 昌 史 （財）日本水土総合研究所理事長

臨時委員 加 戸 守 行 愛媛県知事  
（代理）頼 木 清 隆（土木部河川港湾局河川課技術課長補佐）

臨時委員 尾 崎 正 直 高知県知事  
（代理）平 田 幸 成（土木部河川課長）  
（代理）永 野 聖（土木部河川課長補佐）

臨時委員 古 川 康 佐賀県知事  
（代理）井 出 昇（県土づくり本部河川砂防課技術監）